

# 平成 25 年度事業計画書

学校法人千葉工業大学

## ■ 高等教育を取り巻く環境

グローバル化した国際社会は、一部地域の問題が瞬時に世界中に影響を与え、先進国から途上国まで世界の国々の関係は緊密度を増してきている。ユーロ圏の金融不安は未だ解消されず、北朝鮮の核開発問題、中国の環境汚染など、日本を取り巻く環境は厳しさを増している。

国内では、東日本大震災から二年が経過したが、被災地の復興は道半ばであり、福島第一原発の処理も先行きが不透明な状況が続いている。一方、経済を中心とした社会状況は、昨年12月の政権交代によって、新たな政策が実施され始めたことにより、株価、為替、雇用などに明るい兆しが見え始めている。

これら国際情勢の変化や国内社会の動向を踏まえ、文部科学省は、2つの大きな柱と8つの基本的な方向性から成る「大学改革実行プラン」を発表し、大学教育の質的転換やグローバル化に対応した人材育成など、「知の拠点」としての大学の果たすべき役割を明らかにした。

## ■ 本学の現状

昨年度（平成24年度）は昭和17年の創立から70年目の節目の年にあたり、5月15日の創立記念日には創立70周年祝賀会を挙行了したほか、学生主催行事においても70周年に関連するイベントを実施した。今年度からは次の節目に向けて、着実に事業を進めて行く。

震災復興への支援としては、未来ロボット技術研究センターが中心となって開発した災害対策ロボット「クインス」に改良を加えながら東京電力に継続貸与し、新たなミッションに合わせて「ローズマリー」「櫻」を開発し、「クインス」に続いて東京電力に無償貸与した。

学内では、理事長・学長が交代し、新たな体制がスタートした。これまで続けていた様々な学生支援については、実施内容を検証し、成果を上げるべく更なる改善に向けて具体化を進めている。また、教育・研究体制についても本学の現状、社会のニーズ等を踏まえ、改革の検討を開始した。

平成24年5月に開設した東京スカイツリータウンキャンパスでは、原発対応ロボット「ローズマリー」をはじめ「モルフ」や「ハルキゲニア」などを展示し、さらに「火星探査操縦シュミレーター」を設置するなど、本学の最先端の研究成果を広く社会にアピールする場としている。開設から既に17万人以上の来場者を迎えており、今後も展示内容の更新を進め、引き続き本学の研究成果の発表の場として活用していく。

本学の一般入試の志願者動向は、キャンパス再開の完了、入試制度の改革、教育研究体制の充実、積極的な広報展開等によって志願者は回復基調にある。しかし、この結果に満足することなく、教育課程改革、修学支援体制の更なる充実やキャリア教育の拡充など、総合的な学生支援体制の強化を今後も進めていく。

## ■ 平成 25 年度事業計画

### 1. 教育研究

学部教育においては、学生の多様化に対応した授業方法の改善を継続的に行い、留年率・退学率の減少に努める。特に平成 25 年度からは、新たに S A（スチューデントアシスタント）を導入した学習支援制度の開始のほか、履修制限の見直し、再履修クラスの設置、カリキュラムのスリム化等の諸施策を推進する。

さらに、新学生寮での活動を視野に入れ、メンター制度の見直し、博士課程修了者の教育者養成プログラムの導入等に着手する。

また、平成 25 年度には学部・大学院の新入生全員にタブレット型端末を貸与し、学生と教職員間の双方向的な通信システムの促進や学習支援のために有効活用することも計画されている。

大学院においては、本学附属総合研究所等と連携した教育研究体制の確立を図るとともに、秋入学の実施等により、留学生も含めた学生数の確保を図る。

さらに、大学院生のプレゼンテーション能力、語学能力の向上のための全専攻共通科目の導入を図る。

一方、学部学生の大学院への進学率向上も重要な課題であり、キャリア教育の充実を図りながら、就職率の向上と併せて教職員全体で取り組む。

研究面では、総合研究所の組織面、運営面での改革を進め、研究費の重点配分や予算の弾力的な執行を可能とし、研究の活性化を図ると同時に、大学と企業等との橋渡し役としての機能を充実させ、産官学連携を推進する。

また、研究費の適正使用に関する管理体制を見直し、早急に改善を図るとともに、研究費の不適正使用や論文盗用等を防止するために研究者倫理等の周知徹底を図り、大学の社会的責任を果たすよう努める。

国際化については、学生関係の海外交流を一括して管理する体制を構築し、海外交流協定校を増加させることで、留学生の受け入れ及び本学学生の海外留学ともに増加させるよう、スピード感をもって積極的に対応する。

また、新学生寮を大学のグローバル化に積極的に活用すべく、日本人学生と留学生等との交流のための諸制度の整備に取り組む。

平成 16 年度に構築した学内 L A N は、これまで大学では類を見ない光ファイバーによる直収型ネットワークであり、約 10 年に及ぶ使用における運用コストの削減やその使い勝手において十分な成果が得られているが、その後の I C T の進歩によるインターネットへの接続方法の多様化への対応や、セキュリティーの強化等のため、平成 25 年度において学内 L A N の更改を行う。

〔具体的項目〕

(1) 学生生活の満足度向上へ向けた継続的対応

- ① 授業満足度調査の活用
- ② 自己発見レポートの活用
- ③ I C T を活用した総合的なサービスの充実

- ④単位互換制度の推進
- (2) 学生支援の充実強化
- (3) 学生共済会の充実
- (4) 入学前教育の充実
- (5) 教養基礎教育カリキュラムの充実
  - ①T O E I C 試験実施
- (6) 初年次教育の充実
  - ①初年次教育（学習技術・導入科目）の実施
  - ②学習支援センターの積極的活用
- (7) 教職員が連携した就職支援の推進
  - ①学科独自の支援行事の実施
  - ②企業交流の拡充
- (8) キャリア教育（初年次から）の実施
- (9) キャリア形成支援プログラムの強化
  - ①新規プログラムの実施
  - ②資格取得講座の拡充
- (10) 保護者向け就職支援プログラムの実施
- (11) インターンシッププログラムの拡充・促進
- (12) 新入生に対する少人数制による総合的な支援
  - ①オリエンテーションの実施
  - ②クラス担任制
  - ③メンター制度
- (13) 習熟度別教育の充実
- (14) 「C I Tものづくり」を通じ、学生の工学に対するモチベーションを高めるためのものづくり活動支援
- (15) J A B E E（日本技術者教育認定機構）認定申請に向けた取組
- (16) F D（ファカルティ・ディベロプメント）の充実と研究・教育業績の多面的評価の推進
- (17) 競争的研究資金等公的研究費獲得支援
- (18) 経常費補助金特別補助事業の強化
- (19) 研究状況・成果の積極的広報展開
- (20) 大学の特色を活かした公開講座の推進
- (21) 各種データベースを使用した教育及び研究能力の向上を支援
- (22) 主として学生のリテラシー能力向上に資する学習支援
- (23) 図書館システムの機能を有効に活用した利用者の利便性の向上
- (24) 海外交流協定校の新規開拓
- (25) 留学生の派遣及び受入れ実績の増加
- (26) 学内L A Nの更改
  - ①基幹サーバのクラウド化によるネットワーク環境の改善
  - ②iPad 導入に対応した無線L A N環境の構築
  - ③ネットワークセキュリティの向上

- ④学外へ高速マルチメディア配信が可能なネットワークインフラの整備
- ⑤災害による停電発生時にも対応可能な学外サーバ認証基盤の構築
- (31) 千種寮 50 周年記念事業の実施
- (32) 東京スカイツリータウンキャンパスの展開拡大
- (33) 入試・大学広報の充実
- (34) 入学者の質の確保
- (35) N E D O 技術開発プロジェクトの研究開発
- (36) J A X A との共同研究（月面プラント埋設ロボット）
- (37) 新型ロボットプロジェクトの推進
- (38) 超小型衛星流星観測プロジェクト
- (39) 国際宇宙ステーションからの流星観測
- (40) 「はやぶさ 2」搭載機器開発

## 2. 管理運営

キャンパスの再開発は、平成 24 年度に実施した津田沼キャンパスの学生部室棟・金化実験棟解体工事とその後の各所跡地整備工事を以って、一応の完成を迎えた。

今年度は、その集大成として位置づける新習志野キャンパスの新学生寮建設計画に注力し、建設工事と並行して什器・家具等の備品購入計画や外構整備計画を進める。

既存建物の改修整備計画は、機器設置後 17 年が経過して老朽化が著しい、津田沼キャンパス 6 号館の空調更新工事や、平成 25 年よりアナログ交換機の生産が終了し、デジタル化への移行が始まる講義室の A V 機器リプレースを 3 カ年計画で行うなど、学生の満足度向上・教育環境整備の充実に繋がる計画を遂行していく。

なお、平成 25 年度から「芝園キャンパス」の名称を「新習志野キャンパス」に変更し、それぞれのキャンパスを J R の最寄駅名で呼称することとした。

〔具体的項目〕

### I. 施設・設備関係

- (1) 新習志野キャンパス：新学生寮建設工事
- (2) 新習志野キャンパス：新学生寮建設工事に伴う外構整備工事
- (3) 津田沼・新習志野キャンパス：A V 機器デジタル化対応工事
- (4) 津田沼キャンパス：6 号館空調改修工事
- (5) 東京スカイツリータウンキャンパス：新規区画 開設工事
- (6) 飯岡研修センター：飯岡研修センター解体工事

### II. 組織等

- (1) 継続した学生支援業務，教育研究サポート業務の充実のための事務対応強化
- (2) 研究費の不正使用防止に向けた発注・検収業務の強化
- (3) 自己点検・評価の実施及び認証評価受審準備

- (4) 安定的な経営基盤の確立を目指した財務運営
- (5) SDを目指した各種研修の継続実施

以上